

緑のカーテン普及施策の効果波及メカニズムの分析：
個人の節電行動と行政への信頼に与える影響を中心に
A causal analysis of the spillover mechanism of green curtain policy: Influence on household power savings and trust in local governments



村上 一真
Kazuma Murakami

「緑のカーテン普及という行政施策の成果も含む、近隣家庭や街なかの緑のカーテンの存在」が与える影響について、他者との関わりも通じた、緑のカーテンの実施意欲とその判断時意識への影響の分析（分析1）と、緑のカーテン普及施策の評価も通じた、屋内での節電行動および温暖化防止政策全般に係る行政への信頼に対する影響の分析（分析2）を実施した。2つの自治体の住民への質問票調査データの分析（共分散構造分析、多母集団同時分析等）により、緑のカーテンによる電気代節約と環境配慮の効果に期待しないほうが、緑のカーテンの実施意欲は高まること、温暖化防止政策の一部でしかない緑のカーテン普及施策への評価は、温暖化防止政策全般に係る行政への信頼にもつながることなどを明らかにした。

This study examined the influence of the presence of green curtains in neighboring buildings and streets on people's willingness to nurture green curtains (analysis 1), and on their power saving behavior and trust in administrative policies for global warming prevention (analysis 2). For this, the results of administrative measures for widespread installation of green curtains were considered. Data obtained from residents of two municipalities through questionnaire survey were analyzed by using structural equation modeling. The proposed model shows that willingness to nurture green curtains increases when the expectations regarding electricity saving and environmental consideration is low. Furthermore, trust in administrative policies for global warming prevention was raised when administrative measures for widespread installation of green curtains are highly evaluated.

研究の背景と目的

(1) 研究の背景

国内の家庭部門の電力需要量の増加率は産業部門と比較して高く、パリ協定を踏まえた地球温暖化防止、東日本大震災以降の電力供給不安などに対して、家庭でも電力需要抑制が引き続き求められている。他方、原子力発電所の再稼働や、2016年4月からの電力小売自由化による電気料金低下により、節電行動の緩みも今後予想される。家庭での節電が望まれる状況下で、政府・自治体の厳しい財政状況を踏まえると、今後求められる節電促進施策は、より効率的・効果的な必要がある。これに沿うものとして、緑のカーテン（ゴーヤなどのツル性の植物を、窓の外や壁面に張ったネットなどに這わせてカーテンのように覆い、遮光効果等により室温を下げる）の普及施策が一案として考えられる。

緑のカーテンは、東日本大震災以降、夏季の節電対策として公共施設や家庭での実施が増加している。他者に“見える”近隣家庭や街なかの緑のカーテンの存在は、自宅での緑のカーテン実施の契機となるだけでなく、屋内での節電行動を促進させる効果もあると想定される。また身近な緑は心的な涼しさや癒し、健康、景観にも良い影響を与える。さらに緑のカーテンは灌水などの日々の育成作業を伴うことから、近隣家庭とのコミュニケーション、高齢者世帯の見守り、地域の防犯性向上などの地域・コミュニティ形成効果も期待される。緑のカーテンは、個別家庭の“点”から地域・コミュニティの“面”へと、節電・CO₂削減や生活の質向上の効果を拡大させる可能性を有している。

(2) 研究の目的

本研究は、緑のカーテン普及という行政施策の成果も含む、近隣家庭や街なかの緑のカーテンの存在が、目に見える形での節電・CO₂削減というメッセージ（アナウンスメント効果）となり、自宅での緑のカーテン実施に限らず、屋内での節電行動を促進させることで、節電・CO₂削減効果を一層高めるであろうプロセスを、住民への質問票調査の分析により明らかにする。そこでは、他者との相互依存関係で成り立つ社会における、他者からの影響、他者への行動波及の影響も検証し、地域・コミュニティへの広がりの可能性も考察する。

またさらなる波及効果として、行政への信頼に対する影響も検証する。近隣家庭や街なかの緑のカーテンの存在は、人々のヒューリスティックな判断を通じて、緑のカーテン普及という個別施策への評価だけでなく、温暖化防止政策全般に係る行政への信頼につながる可能性がある。行政への信頼水準は政策の受容性・実効性を規定する。昨今の財政悪化、行政ニーズの多様化・複雑化等の環境変化に対応しつつ、効率的で効果的な政策を立案・実施するには、行政には住民からの信頼獲得が不可欠である。住民の目に触れやすい個別施策の展開により行政への信頼を高めることができれば、行政や政策のあり方にも示唆を与える。

研究経過

(1) 仮説モデルの設定

「緑のカーテン普及という行政施策の成果も含む、近隣家庭や街なかの緑のカーテンの存在」が与える影響について、2つのモデルでの分析を行う。他者との関わりも通じた、緑のカーテンの実施意欲とその判断時意識への影響の分析（分析1）と、緑のカーテン普及施策の評価も通じた、屋内での節電行動および温暖化防止政策全般に係る行政への信頼に対する影響の分析（分析2）である。

まず仮説モデルを2つ設定する（図1、図2）。分析1（図1）の構成要素として「市内緑カーテン状況」（市内の緑のカーテンの状況や推移への視認による主観的な評価）、「近隣他者との関わり」（緑のカーテンに係る具体的な近隣他者との関わり）、「緑カーテン実施／未実施判断時の意識」（今夏の緑のカーテンの実施／未実施を判断した際の意識）、「緑カーテン意欲」（今夏の緑のカーテンの実施意欲）を設定した。そして、近隣家庭や街なかの緑のカーテンの存在である「市内緑カーテン状況」の認知が、近隣他者との緑のカーテンに係る会話や期待、推奨などの「近隣他者との関わり」の材料となり、またその「近隣他者との関わり」も通じつつ、「緑カーテン実施／未実施判断時の意識」と「緑カーテン意欲」に影響を与えるという構造を仮定した。

分析2（図2）の構成要素として「市内緑カーテン状況」、「緑カーテン施策の評価」（市〔行政〕などの緑のカー

テン普及の取組みへの評価),「節電行動および緑カーテン意欲」(今夏の節電行動の実施状況,今夏の緑のカーテンの実施意欲),「温暖化防止政策に係る行政への信頼」(市[行政]の地球温暖化防止の取組みへの評価)を設定した。そして,「市内緑カーテン状況」の認知が,「緑カーテン施策の評価」の判断材料となり,またその「緑カーテン施策の評価」も通じつつ,行政施策への賛同や協力意向も含んだ「節電行動および緑カーテン意欲」と,個別施策からのヒューリスティックな判断も含んだ「温暖化防止政策に係る行政への信頼」に影響を与えるという構造を仮定した。

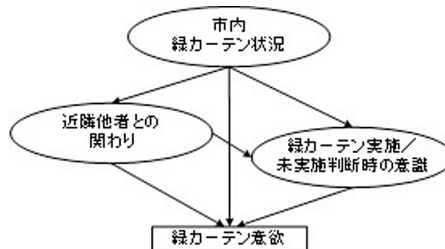


図1. 仮説モデル (分析1)

Fig.1. Hypothesis model(analysis 1)

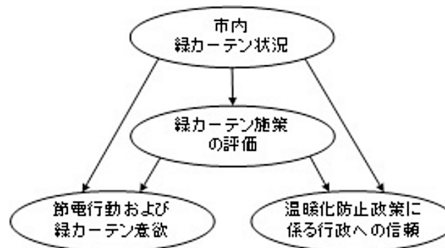


図2. 仮説モデル (分析2)

Fig.2. Hypothesis model(analysis 2)

(2) 研究対象の設定

仮説モデルの妥当性・頑健性の検証のため,2つの自治体に質問票調査を行い,そこから得られるデータの分析(共分散構造分析,多母集団同時分析等)により,自宅での緑のカーテン実施,屋内での節電行動,行政への信頼に影響を与えるプロセスを明らかにする。またここでは,地域別(緑のカーテン普及施策が活発な自治体/あまり活発でない自治体),実施状況別(緑のカーテンの実施経験の有無,今夏の緑のカーテンの実施有無),属性別(同居する子供の有無等)での違いを明らかにし,緑のカーテン普及施策の効果波及メカニズムおよび効果水準について,地域別,実施状況別,属性別での違いも考察する。

研究対象地域(自治体)として,緑のカーテン普及施策が活発な自治体と,あまり活発でない自治体の2つを設定する。緑のカーテン普及施策が活発な自治体として,福知山市(京都府)を選定する。福知山市は「みどりのカーテン日本一のまち」を目指しており,ゴーヤ先生というゆるキャラをつくり,緑のカーテン講習会や苗配布などの様々な普及施策を行っている。福知山市の緑のカーテン実施率は2017年で11.7%であり,2023年の目標を25.0%としている。

そして,あまり活発でない自治体として,同じ京都府内のX市を選定する。気候等が類似していると想定される近隣の自治体の中から,文献やHPなどで緑のカーテン普及施策を調査し,選定した。

次に質問票配布地域(地区)として,福知山市では,市から提供いただいた過去3年間の地区ごとの緑のカーテンの実施率調査結果と,緑のカーテンの実施率調査を行っている福知山環境会議幹事会での議事録をもとに,近隣家庭や街なかに緑のカーテンが特に多いと想定される地区を選定した。

X市においても「緑のカーテン普及という行政施策の成果も含む,近隣家庭や街なかに緑のカーテンの存在」の

影響を分析するため、緑のカーテンへの視認性が相対的に高いであろう地区を選定する。市から提供いただいた過去9年間の緑のカーテンモデル事業（緑のカーテン育成の実施意向のある保育所、保育園、幼稚園、小中学校、介護施設などに、緑のカーテンの苗を配布し育ててもらったモデル事業）の実施結果をもとに、直近5年連続で実施されている施設の立地する地区を選定した。

(3) 質問票調査の実施

図1、図2の仮説モデルの構成要素ごとに、その下位尺度となる質問を設定した。いずれも6件法（6点～1点）で測定した。また他に、今夏の緑のカーテンの実施有無（2択）、緑のカーテンの実施経験の有無〔今夏も含む〕（2択）、同居する子供の有無（2択）などを把握した。なお共分散構造分析および多母集団同時分析に際しては、AMOS19.0を用いた完全情報最尤推定法により、欠損値を含めた分析を行う。

調査は2017年9月に、前述の福知山市とX市の配布地区それぞれに対して配達地域指定郵便にて質問票を配布し（福知山市1,623部、X市1,781部）、郵送にて回収した。結果、福知山市で403部、X市で550部の有効回答を得ることができ、有効回答率はそれぞれ24.8%と30.9%となった。

研究成果及び考察

(1) 分析1：緑のカーテンの実施意欲とその判断時意識への影響

1) 分析モデルの設定（分析1）

分析モデル設定のため、まず図1の「近隣他者との関わり」（6項目）、「緑カーテン実施／未実施判断時の意識」（10項目）について、最尤法、プロマックス回転により因子分析を行った。結果、両市ともに「近隣他者との関わり」は1因子が抽出され、〔近隣他者との関わり〕と命名した。尺度の内的整合性を示すクロンバック α 係数は福知山市で0.90、X市で0.90と一般的な基準である0.70を上回った。「緑カーテン実施／未実施判断時の意識」は、両市ともに同じ項目で4因子が抽出され、〔育成楽しさ〕、〔環境・節約貢献〕、〔遮光・冷房効果〕、〔コスト意識〕と命名した。クロンバック α 係数は両市の4因子とも0.70を上回った。

次に〔市内緑カーテン状況〕は、“市内で緑のカーテンに取り組む人が増えてきている”、“市内の緑のカーテンの量が増えてきている”の2項目で、市内の緑のカーテンの状況や推移への視認による主観的な評価として6件法で測定した。クロンバック α 係数は福知山市で0.96、X市で0.95となった。また〔緑カーテン意欲〕は、“あなたは今夏前に緑のカーテンを実施してみようと思いましたか”を6件法で測定した。なお〔市内緑カーテン状況〕、〔緑カーテン意欲〕の水準は、X市よりも福知山市が高くなった。

2) 分析モデルの検証（分析1）

前項で設定した分析モデルについて、共分散構造分析を行った。図3に福知山市の分析結果を示した。モデルの識別性確保のため、潜在変数から下位尺度の観測変数へのパスで、それぞれ図上で最も上にあるパス係数を1に固定する制約を課し、最尤法により解を求めた。結果、モデルの適合度はCFI=0.929、RMSEA=0.084となった。適合度の水準として、加納・三浦(1997)、West et al. (2012)、豊田(2014)は、CFIは0.95以上が望ましいとする。RMSEAについては、加納・三浦(1997)、豊田(2014)は0.10以上だとモデルの当てはまりは悪いと、Kline(2004)は0.05未満をClose fit(良好)、0.05-0.08をfair(良)、0.08-0.1をMediocre(可)、0.1以上をPoor(不可)とする。図3よりCFIは望ましい水準に達していないが、RMSEAは0.1未満であり、本分析結果は一定の適合度を示したと捉える。なお、図3では潜在変数から下位尺度の観測変数へのパス、および攪乱変数間のパスは全て有意となった($p<0.01$)。またX市のモデルの適合度はCFI=0.929、RMSEA=0.087であった。

図3より、〔緑カーテン意欲〕には〔育成楽しさ〕、〔遮光・冷房効果〕がプラスの影響を与え、手間や時間、費用の認知としての〔コスト意識〕と、地球温暖化防止、化石燃料や電気代の節約としての〔環境・節約貢献〕がマイナスの影響を与える。緑のカーテンによる電気代節約と環境配慮の効果に期待しないほうが、緑のカーテンの実施意欲は高まる。また〔近隣他者との関わり〕も〔緑カーテン意欲〕に直接的な影響を与えている。加えて「市内緑カーテン状況→コスト意識」、「近隣他者との関わり→コスト意識」は5%水準で非有意であり、これらは〔コスト意識〕の抑制にはつながっていない。

X市の福知山市との結果の違いは、X市では「遮光・冷房効果→緑カーテン意欲」が5%水準で非有意であった点である。X市は今夏の緑のカーテンの実施者割合、緑のカーテンの実施経験者割合が福知山市と比べて低く、[遮光・冷房効果]のメリットが認知、共有されていないことが要因の1つと考えられる。

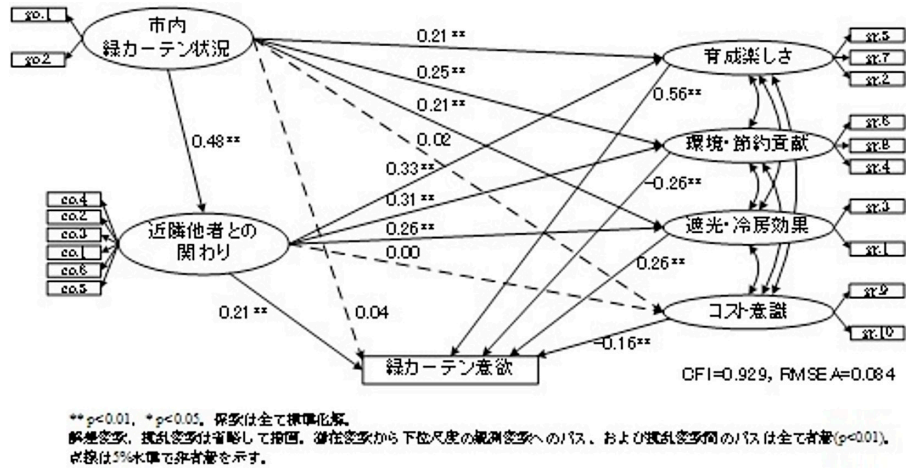


図3. 分析1の結果（福知山市）

Fig.3. Results of structural equation modeling(analysis 1, fukuchiyama)

3) 多母集団同時分析（分析1）

表1に福知山市の分析結果を示した。緑のカーテンの実施経験について、無群(N=170)、有群(N=233)での多母集団同時分析、および実施経験のある群(N=233)における今夏の緑のカーテンの実施について、無群(N=113)、有群(N=120)での多母集団同時分析を実施した。潜在変数から下位尺度の観測変数へのパス、および攪乱変数間のパスに等値制約（パス係数を等値とする）を設定し、分析を行った。モデルの適合度は実施経験有無区分のモデルで CFI=0.921, RMSEA=0.059, 今夏の実施有無区分のモデルで CFI=0.909, RMSEA=0.050 といずれも一定の適合度が得られた。なお X 市のモデルではそれぞれ CFI=0.925, RMSEA=0.060 と、CFI=0.916, RMSEA=0.050 となった。

ここでは福知山市での [緑カーテン意欲] への直接のパスの母集団間での違いを考察する。表1左の実施経験有無区分の結果より、有群のみ「育成楽しさ→緑カーテン意欲」、「環境・節約貢献→緑カーテン意欲」が有意となっている。これより、緑のカーテン実施による電気代節約や環境への貢献を期待せず、ゴーヤの身や花や育てる過程を楽しんだり、癒しを得るといった姿勢が、緑のカーテン実施につながっていると解釈できる。

表1右の今夏の実施有無区分の結果より、有群のみ「市内緑カーテン状況→緑カーテン意欲」、「遮光・冷房効果→緑カーテン意欲」が有意となっている。これより、近隣家庭や街なかの緑のカーテンの生育状況の参照や緑のカーテンを上手く育てることで、遮光・冷房効果を意識したり実感できるかが、継続的な緑のカーテン実施に影響を与えると解釈できる。

表1. 分析1の多母集団同時分析結果 (福知山市)

Table1. Results of multiple group analysis (analysis 1, fukuchiyama)

	緑のカーテンの実施経験		今夏の実施状況	
	無群(N=170)	有群(N=233)	無群(N=113)	有群(N=120)
市内緑カーテン状況→近隣他者との関わり	0.51 **	0.40 **	0.47 **	0.36 **
市内緑カーテン状況→育成率しき	0.14	0.22 **	0.11	0.38 **
市内緑カーテン状況→環境・節約貢献	0.24 *	0.23 **	0.21	0.30 **
市内緑カーテン状況→遮光・冷房効果	0.22 *	0.18 *	0.27 *	0.07
市内緑カーテン状況→コスト意識	0.11	-0.02	0.16	-0.09
近隣他者との関わり→育成率しき	0.35 **	0.25 **	0.35 **	-0.03
近隣他者との関わり→環境・節約貢献	0.29 **	0.29 **	0.22	0.34 **
近隣他者との関わり→遮光・冷房効果	0.19 *	0.22 **	0.22	0.09
近隣他者との関わり→コスト意識	-0.08	0.16	-0.03	0.38 **
市内緑カーテン状況→緑カーテン意欲	-0.03	0.03	0.05	0.23 *
近隣他者との関わり→緑カーテン意欲	0.34 **	0.15 *	0.08	0.14
育成率しき→緑カーテン意欲	0.09	0.73 **	0.63 **	0.53 **
環境・節約貢献→緑カーテン意欲	0.10	-0.26 *	-0.06	-0.27
遮光・冷房効果→緑カーテン意欲	0.19	0.18	0.00	0.30 *
コスト意識→緑カーテン意欲	-0.19 *	-0.15 **	-0.07	-0.11
モデルの適合度	CFI=0.921, RMSEA=0.059		CFI=0.909, RMSEA=0.050	

** p<0.01, * p<0.05

(2) 分析2：屋内での節電行動および温暖化防止政策全般に係る行政への信頼に対する影響

1) 分析モデルの設定 (分析2)

分析モデル設定のため、まず図2の「節電行動および緑カーテン意欲」での今夏の節電行動の実施状況(6項目)について、最尤法、プロマックス回転により因子分析を行った。結果、両市ともに同じ項目で2因子が抽出され、[節電行動(エアコン)]、[節電行動(その他)]と命名した。なお、他の目的変数と形状を合わせるため、分析では各因子の下位尺度の平均値を用いた。[緑カーテン意欲]および[市内緑カーテン状況]は分析1で示した方法で測定した。[緑カーテン施策の評価]は、「市(行政)や関係団体の緑のカーテン普及の取組みについて、満足している」、「市(行政)や関係団体の緑のカーテン普及の取組みは、効果をあげている」の2項目で、市(行政)の緑のカーテンの普及施策への主観的な評価として6件法で測定した。クロンバック α 係数は福知山市で0.92、X市で0.91となった。なお[緑カーテン施策の評価]の水準は、X市よりも福知山市が高くなった。

「温暖化防止政策に係る行政への信頼」は、村上(2016)などを踏まえ、要素とその関係性を設定した。[能力]は「市(行政)は、地球温暖化防止のための専門知識・技能を持っている」、[誠実さ]は「市(行政)は、地球温暖化防止のために誠実に取り組んでいる」、[価値類似性]は「市(行政)が地球温暖化防止のために重視することと、あなたが重視することは一致している」、[信頼]は「地球温暖化防止のための取組みについて、市(行政)は信頼できる」をそれぞれ6件法で測定した。

2) 分析モデルの検証 (分析2)

前項で設定した分析モデルについて、共分散構造分析を行った。図4に福知山市の分析結果を示した。モデルの識別性確保のため、潜在変数から下位尺度の観測変数へのパスで、それぞれ図上で最も左にあるパス係数を1に固定する制約を課し、最尤法により解を求めた。結果、モデルの適合度はCFI=0.984、RMSEA=0.063となり、一定の適合度が得られた。なお、図4では潜在変数から下位尺度の観測変数へのパス、および誤差変数間のパスは全て有意となった(p<0.01)。またX市のモデルの適合度はCFI=0.973、RMSEA=0.076であった。

図4より、[市内緑カーテン状況]は[緑カーテン意欲]、[節電行動(その他)]に直接影響を与えるが、「温暖化防止政策に係る行政への信頼」の各要素には直接影響を与えず、[市内緑カーテン状況]から影響を受けた[緑カーテン施策の評価]が[能力]、[誠実さ]、[価値類似性]に影響を与える。近隣家庭や街なかの緑のカーテンの存在は、屋内の[節電行動(その他)]を促し、また緑のカーテン普及施策の成果の一部として評価される。そしてその温暖化防止政策の一部でしかない緑のカーテン普及施策への評価は、温暖化防止政策全般に係る行政への信頼につながる。

X市の福知山市との結果の違いは、X市では「市内緑カーテン状況→節電行動(その他)」は5%水準で非有意であり、「市内緑カーテン状況→節電行動(エアコン)」および「緑カーテン施策の評価→節電行動(その他)」が有意

となった点である。X市では、近隣家庭や街なかの緑のカーテンの存在が、直接および間接に節電行動(エアコン)と節電行動(その他)を促している。

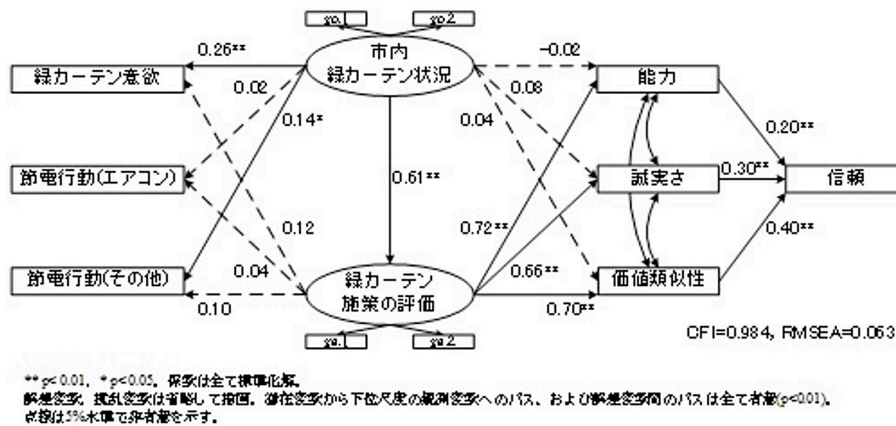


図4. 分析2の結果 (福知山市)

Fig.4. Results of structural equation modeling(analysis 2, fukuchiyama)

3) 多母集団同時分析 (分析 2)

表 2 に福知山市の分析結果を示した。緑のカーテン施策の認知・関心について、低群 (N=81), 高群 (N=320) での多母集団同時分析, および同居する子供の有無について、無群 (N=250), 有群 (N=153) での多母集団同時分析を実施した。潜在変数から下位尺度の観測変数へのパス, および誤差変数間のパスに等値制約 (パス係数を等値とする) を設定し, 分析を行った。モデルの適合度は緑のカーテン施策の認知・関心区分のモデルで CFI=0.980, RMSEA=0.044, 子供の有無区分のモデルで CFI=0.987, RMSEA=0.038 といずれも一定の適合度が得られた。なお X 市のモデルではそれぞれ CFI=0.963, RMSEA=0.057 と, CFI=0.965, RMSEA=0.059 となった。

ここでは福知山市の結果について、前項の全サンプルでの分析結果 (図 4) との違いを考察する。表 2 左の緑のカーテン施策の認知・関心区分の結果より、低群は「市内緑カーテン状況→節電行動(その他)」, 「能力→信頼」は 5% 水準で非有意であった。高群は「市内緑カーテン状況→誠実さ」が有意となった。これらより、[市内緑カーテン状況] が [節電行動(その他)] に影響を与えるのは高群のみであることが明らかとなった。また高群は緑のカーテン施策の認知・関心の高さゆえに、[市内緑カーテン状況] への施策の貢献度を認知しており、[市内緑カーテン状況] を判断材料として、直接、温暖化防止政策に係る [誠実さ] を評価したと解釈できる。

表 2 右の子供の有無区分の結果より、無群は「緑カーテン施策の評価→緑のカーテン意欲」が有意となった。有群は「市内緑カーテン状況→誠実さ」, 「市内緑カーテン状況→価値類似性」が有意となり、「能力→信頼」は 5% 水準で非有意であった。これらより、有群は子供の将来における温暖化への懸念があり、[市内緑カーテン状況] を判断材料として、直接、温暖化防止政策に係る [誠実さ] と [価値類似性] を評価したと解釈できる。他方、無群は [緑カーテン施策の評価] をもとに、緑のカーテン実施への賛同や協力意向を判断している。なお X 市も無群の「緑カーテン施策の評価→緑のカーテン意欲」は有意であった。

表2. 分析2の多母集団同時分析結果 (福知山市)

Table2. Results of multiple group analysis (analysis 2, fukuchiyama)

	緑カーテン施策の認知・関心		同居する子供の有無	
	低群(N=81)	高群(N=320)	無群(N=250)	有群(N=153)
市内緑カーテン状況→緑カーテン施策の評価	0.32 **	0.56 **	0.60 **	0.63 **
市内緑カーテン状況→緑カーテン意欲	0.40 **	0.18 *	0.24 **	0.28 **
市内緑カーテン状況→節電行動(エアコン)	-0.03	0.03	-0.04	0.07
市内緑カーテン状況→節電行動(その他)	-0.15	0.22 **	0.13	0.13
緑カーテン施策の評価→緑カーテン意欲	-0.13	0.11	0.17 *	0.04
緑カーテン施策の評価→節電行動(エアコン)	0.08	-0.07	0.12	-0.03
緑カーテン施策の評価→節電行動(その他)	0.13	-0.07	0.14	0.05
市内緑カーテン状況→能力	-0.10	0.02	-0.08	0.10
市内緑カーテン状況→誠実さ	-0.17	0.16 **	0.04	0.16 *
市内緑カーテン状況→価値類似性	-0.08	0.09	-0.04	0.17 *
緑カーテン施策の評価→能力	0.70 **	0.65 **	0.73 **	0.68 **
緑カーテン施策の評価→誠実さ	0.76 **	0.54 **	0.67 **	0.64 **
緑カーテン施策の評価→価値類似性	0.68 **	0.61 **	0.74 **	0.61 **
能力→信頼	0.15	0.21 **	0.24 **	0.10
誠実さ→信頼	0.41 **	0.28 **	0.27 **	0.43 **
価値類似性→信頼	0.36 **	0.39 **	0.41 **	0.37 **
モデルの適合度	CFI=0.980, RMSEA=0.044		CFI=0.987, RMSEA=0.038	

** p< 0.01, * p< 0.05

今後の展望

本研究内では、他の属性間や地域間での比較分析、政策提案に係る分析・考察などを進めていく。また本研究をもとにして、地域間でのRCT(ランダム化比較試験)の比較研究、他の関連施策との比較研究などを展開していく。

謝辞

質問票配布地域選定に係る関連データをご提供いただいた福知山市およびX市の担当者、またアンケートにご協力いただいた福知山市およびX市の住民のみなさまに感謝申し上げます。

引用文献

- [1] 加納裕・三浦麻子(1997) AMOS, EQS, CALISによるグラフィカル多変量解析:目で見える共分散構造分析. 現代数学社, 293pp.
- [2] West, S. G., A. B. Taylor and W. Wu (2012) Model fit and model selection in structural equation modeling, In Hoyle, R. H. (Ed) Handbook of structural equation modeling. Guilford Press, New York, 209-231.
- [3] 豊田秀樹(2014) 共分散構造分析 [R 編]. 東京図書, 289pp.
- [4] Kline, R. B. (2004) Principles and practice of structural equation modeling. Guilford Press, New York, 366pp.
- [5] 村上一真(2016) 環境配慮行動の意思決定プロセスの分析:節電・ボランティア・環境税評価の行動経済学. 中央経済社, 282pp.

本助成研究にかかわる成果

[口頭/ポスター発表]

1. 村上一真(2018) 緑のカーテン普及施策が与える影響に関する構造分析, 環境科学会 2018 年会 (予定)